

鉄道・運輸機構だより

No.51

2016 Autumn
秋季号



地域社会の発展と整備新幹線の建設

鉄道・運輸機構 理事 松橋 貞雄

平成27年3月、北陸新幹線（長野・金沢間）が開業し、平成28年3月には北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）が開業しました。

私は昨年3月まで、富山で北陸新幹線の建設を担当していました。開業当日の盛り上がりは熱烈なものであり、私を含めそれまで苦勞してきた関係者一同、この上もない達成感を感じるようになりました。開業後には北陸ブームが巻き起こり、多くの観光客が訪れ、企業の北陸移転が行われるなど、地域経済の活性化に大きく寄与することになっています。これは新幹線の開業に向け、各地域が官民挙げてPR活動を行った結果であり、街づくりを進めてきたことによるものと思われまます。

先日、開業から1年半ほど経過した富山市を訪れる機会がありました。新幹線の開業に合わせて整備された新幹線の駅直下の路面電車の駅から環状線に乗り込み、駅南側の市街地を見てみました。駅周辺や環状線沿線は開業前に比べると整備がかなり進み、開業時にはまだ工事中だった施設も完成し、新しい街に生まれ変わりつつあることを実感しました。市が目指しているコンパクトシティのツールがそろってきており、ヨーロッパの地方都市といった感じです。なお、駅北側は在来線の連続立体交差化事業がまだ工事中で、これが完成すると南北の路面電車のレールや道路がつながり、南北一体化が実現するのですが、これはまだ数年先のこと。地域が目指し

てきた街づくりがどのように仕上がるのか、ぜひまた訪れてみたいと思っています。

現在、機構では北海道新幹線（新函館北斗・札幌間）、北陸新幹線（金沢・敦賀間）、九州新幹線（武雄温泉・長崎間）を建設中です。これらは総工事費約3兆円の大プロジェクトであり、その建設財源には開業した整備新幹線のJR各社からの貸付料や、国の補助金、地方自治体の負担金が入っています。貴重な資金を無駄にすることなく効率的に業務を進めていく必要があります。また、これらに関連して駅周辺や沿線地域で街づくりが進められようとしています。新しい新幹線と地域の取り組みによって、地域社会の発展に大きく寄与することを願っています。今後これらの新幹線を予定通り完成させるために、地元自治体や住民の方々のご理解、ご協力を頂きながら、最大限の努力をしていかなければなりません。

これから建設中の現場では、平成採用の職員が主力となり、第一線で活躍しています。彼らは、直近の北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）を含めた整備新幹線の開業という貴重な経験をしています。これまでの整備新幹線の経験を組織内で共有しながら、建設中の3線の工事を進め、より質の高い鉄道に仕上げてもらいたいと思います。これら3線区の開業までにはさらに世代交代が進み、彼らが各部門のリーダーとして後進の指導を含め、活躍されることを期待しています。

表紙の写真：
長崎県松浦市鷹島（殿ノ浦港）
に入港する共有船「たかしま」
松浦市今福港～鷹島殿ノ浦港間で
運航中。鷹島島民の生活の足とし
て活躍しています。



目次

- 2 ● **巻頭言** 地域社会の発展と整備新幹線の建設
鉄道・運輸機構 理事 松橋 貞雄



- 4 ● **特集** 共有船レポート
人と人をつなぐもの 2016 ～長崎編～



- 10 ● **CLOSE UP**
平成27年度の業務実績評価について
企画調査部企画課

- 14 ● **WORKING REPORT**
▶▶ 北陸新幹線
安全第一の施工で、
北陸のさらなる発展を目指す
鉄道建設本部 大阪支社 小松鉄道建設所



- 20 ● **寄稿** 地方鉄道を訪ねて
「上田電鉄」(長野県)



- 24 ● **JR TT TOPICS**
01 第17回「鉄道のある風景写真コンテスト」……………24
02 「旧国鉄土地」最後の処分に向けて……………27
03 「おがさわら丸」体験乗船会……………28
04 竣工船の紹介……………30

- 31 ● **アンケート／編集後記**

特集
共有船レポート

人と人をつなぐもの 2016 ～長崎編～

長崎県の離島では共有船が活躍しています。平成27年10月に共有船「フェリーくろしま」、平成28年4月には共有船「たかしま」が就航しました。この度、長崎県松浦市「鷹島」と同県佐世保市「黒島」を訪ね、島民にとって、船が人と人をつなぐ大切な役割を果たしている様子を見て聞いて感じてきましたのでお伝えします。

鷹島
「たかしま」



黒島

「フェリーくろしま」



《黒島旅客船有限会社》

船名：フェリーくろしま
総トン数：182トン
速力：12ノット
航路：相浦～高島～黒島
所要時間：約50分
旅客運賃：相浦～黒島 720円
旅客定員：130名

《鷹島汽船有限会社》

船名：たかしま
総トン数：60トン
速力：20ノット
航路：今福～飛島～殿ノ浦（鷹島）
所要時間：約20分
旅客運賃：今福～殿ノ浦 590円
旅客定員：96名



鷹島

元寇ロマン

長崎県松浦市鷹島は、元寇^{げんこう}の地として知られており、島内には、戦いの場所となった証が数多く残されています。中でも「鷹島神崎遺跡」は、元の軍船や遺物が鷹島町神崎免の沖合いで発見され、日本初の海底遺跡として国史跡に指定されました。島の高台にある展望所からは、未だ多くの遺物が眠る海域を一望でき、悠久の時の流れを感じるができます。

元軍が攻めて来た際、鷹島の地で応戦したのは松浦党の水軍でした。本土側の松浦市今福港近くの調川^{つきのかわ}道路公園には、その功績を称えて作られた水軍の兜のミニチュメントが、今も静かに玄界灘を見守っています。



松浦党水軍の兜 (大きさ約 2 m)



展望所から望む神崎港海底遺跡



NHK 大河ドラマ「北条時宗」の劇中で使用された木船



今も松浦党水軍が玄界灘を見守っています

モンゴル村に沈む夕陽

鷹島の最北端には、かつては敵として戦ったモンゴルとの友好交流を深めることを目的に作られた「鷹島モンゴル村」があります。村には広大な丘陵が広がっており、高台からは360度オーシャンビューを楽しめます。特に、



モンゴル村からの夕日

村内にある天然温泉「勝鷹の湯」の露天風呂から見た玄界灘に沈む夕陽の美しさは感動的で、陽が沈みきるまで眺めていました。
また、「鷹IIホークス」つながりで、平成21年から福岡ソフトバンクホークスとの交流が始まり、勝利の祈念および優勝記念の石碑が建てられています。同チームのファンの方は、その石碑に手を合わせれば、勝利を呼び込める……かもしれません。



モンゴル村のゲル (現在は宿泊できません)



モンゴル村の石碑

島グルメ

何と言っても「とらふぐ」です。島ですから、海の幸がイチオシなのは当たり前ですが、その中でも、長崎県はとらふぐの養殖生産量が日本一で、特に鷹島を含む松浦地区がとらふぐ養殖に適しているとのこと。今回、鷹島で宿泊させていただいた「吉乃や」さんでは、手ごろな価格でとらふぐのコース料理を堪能することができます。ちなみに、吉乃やさんのとらふぐは、当日水揚げされた天然モノを扱っているとのことでした。他にも、クロマグロ、サバ、車エビなど、年間を通じて美味しい海の幸を頂くことができます。



ぶぐくしの宿「吉乃や」



とらふぐの刺身

「たかしま」

〈病院へ学校へ。本土へ結ぶ島民の足となる〉

人にやさしい交通手段

鷹島汽船有限公司が運航する共有船「たかしま」は、平成28年4月に就航しました。本土側の松浦市今福港から伊万里湾に浮かぶ飛島を経由して、鷹島の殿ノ浦港までを結んでいます。先代のカーフェリー（356トン）から、航路の需要に即した高速型純客船（60トン）へと生まれ変わりました。船の規模は小さくなりましたが、



佐賀県へつながる鷹島肥前大橋



「たかしま」

スピードアップしたことで、所要時間がこれまでの35分から20分となり、15分間も短縮され、利便性の向上につながりました。また、バリアフリー化がなされたことにより、乗船する全ての人に優しい船となっています。

今福港13時半発の乗船客は、高齢の方が多く、その中のおばあちゃんに話を伺ったところ、「鷹島には診療所しか無いから、毎週、この船で本土の病院まで通ってるの。前の船は座席

が2階で階段の上り下りが大変だったけど、今は乗ったら段差が無くてすぐに座れるので本当に楽になったのよ。何より前よりずっと早いのがいいわね」とうれしそうに話していました。鷹島は、鷹島肥前大橋で佐賀県肥前市とつながっていますが、島民の方の多くは長崎県松浦市にある病院へ通っているため、船が重要な交通手段となっています。

また、鷹島汽船の坂本学社長からは、「本土の高校に通う学生から、今福港から電車への乗り継ぎに余裕がないので何とかして欲しいとの要望があったので、運航時間を5分早める手続を取りました」とのお話があり、船の設計はもちろん、島民目線で島民のために運航されていることを改めて実感しました。

「たかしま」は小さな船ですが、島民の足としてその存在感は大きなものとなっています。



今福港を出港する「たかしま」



「たかしま」の船内

機構とのつながり

鷹島汽船と当機構との関係は古く、昭和41年に1隻目の共有船を建造してから今年でちょうど50年間のお付き合いとなります。その間、8隻の共有船を建造しており、坂本社長からは、「機構にお願いしなければ、船は造れませんよ」という言葉を頂きました。離島航路における共有制度の重要性を再認識するとともに、島民の皆さんの笑顔のためにも、これからも「機構で船を造りたい」と思って頂けるような存在でいなければとの思いを強くしました。



坂本学社長（右）と鷹島汽船の皆さん

黒島

島時間を楽しむ

長崎県佐世保市黒島は、周囲わずか12kmほどの小さな島で、島民約700人の8割がカトリック信徒です。

島内にはバスもタクシーも無く、道路に信号はひとつもありません。島では、都会とは違うゆったりとした時間は、

の流れを感じます。
祈りと共に暮らす

国指定重要文化財で、島のシンボルでもある黒島天主堂は、明治35年、マルマン神父の指導によりレンガ造りの天主堂として造られました。当時、信徒たちの献金および奉仕によって造られたもので、現在も島のカトリック信徒の祈りの場となっています。



黒島名物「ふくれまんじゅう」。その名の通り、ふっくらして素朴な甘さです



黒島でのんびり寛ぐ猫。カメラを構えるところに歩み寄ってきました



黒島天主堂

黒島はカトリックのイメージが強いですが、唯一の仏教寺院である曹洞宗興禅寺があります。一見、お寺かどうか分からない建物ですが、軒下に小さ

唯一の仏教寺院



黒島天主堂外窓から覗くステンドグラス



黒島天主堂



黒島天主堂

な梵鐘ぼんしょうがあります。ここでは、禁教令の時代、仏教徒を装った潜伏キリシタンたちが、興禅寺本堂の柱の影に木彫りのマリア像を隠し、仏像を拝むふりをして祈りを捧げていたと伝えられています。



興禅寺梵鐘



信仰復活の地石碑



興禅寺山門

「フェリーくろしま」 ~人も車も大切な荷物も、この船で本土へ~

人も車も荷物もこの船で

黒島旅客船有限公司が運航する共有船「フェリーくろしま」は、平成27年10月に就航しました。本土側の佐世保市相浦港から、高島を経由して208島ある九十九島の中で最も大きな黒島まで50分で結んでいます。

フェリーくろしまは、黒島および高島と本土を結ぶ唯一の航路として活躍しており、人はもちろん、荷物や車



「フェリーくろしま」



黒島港での下船の様子



「フェリーくろしま」 船室

両の輸送にも無くてはならない存在です。以前に比べて船が大きくなったことで、搭載車両数が増え、これまで混雑時に発生していた車両の積み残しが解消されました。また、客室内には、前方にフリースペースがあり、靴を脱いで足を伸ばして寛ぐことができます。運航ダイヤは、お正月、ゴールデンウィーク、お盆の時期を除いて、1日3便です。相浦港10時発の便は、一般車の他、トラックやゴミ収集車などで車両甲板がいっぱいになっていました。乗船客は、老若男女20名ほどにぎやかな船旅となりました。

黒島唯一のカフェ「Café 海咲」の店長にお話を伺ったところ、「本土へ行く唯一の交通手段なので、この船が無ければ生活が成り立ちません。

活しやすくなるのですが」とのご要望もありました。

島出身の社長



希望を言えば、便数が夕方にあと1便増えたら、もっと生

黒島旅客船の山口奈々子社長は、黒島出身で大学卒業後は神戸のコーヒー会社で研究員をされて



黒島旅客船 山口奈々子社長

いました。6年前、前社長から「社長を引き継いで欲しい」と懇願され、地元に戻ってこられました。

山口社長に黒島について伺ったところ、「黒島は、2018年の世界遺産候補である『長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産』の『黒島の集落』として構成資産の一つとなっています。世界遺産となった際の対応については、既に自治体と協議を始めています。世界遺産に決まったら、たくさんの観光客に来て頂きたいですが、船に乗れる人数は限られているので、悩ましいところ。ただ、まずは島民の生活を守ることが第一だと考えています」との言葉がありました。まさに島出身者だからこそその想いだと感じました。

■ 鷹島への行き方 (高速船利用の場合)



■ 黒島への行き方



おわりに

今回、長崎県の離島で活躍する共有船に乗船し、鷹島、黒島を訪問しました。どちらの島も、船は島民の生活と密接に関係し、そして、人と人をつなぐ役目、を果たしているということを実感しました。また、島では、本当にのんびりした時間が流れており、その中に身を置くことで心の洗濯ができました。

最後に、お忙しい中お話を伺いました皆さまに厚く御礼申し上げます。

平成27年度の業務実績評価について

企画調査部企画課

独立行政法人通則法の規定に基づき、機構は、平成 28 年 6 月末に「平成 27 年度業務実績等報告書」を国土交通大臣へ提出し、国土交通省における業務実績評価の検討を経て、このたび「平成 27 年度業務実績評価書」の通知を受けました。

今回の評価では、「項目別評価」において「鉄道建設等業務（整備新幹線整備事業）」と「船舶共有建造業務における財務内容の改善」の 2 つが A 評価を受けましたので、ご紹介します。

評価の結果

平成 27 年度業務実績評価の「項目別評価」および「総合評価」の結果は、以下の通りです。

■平成27年度業務実績評価

項目別評価		総合評価
A 評価	B 評価	
2 項目	21 項目	<p>B：中期目標における所期の目標が達成していると認められる。</p> <p>評価理由 項目別評価は業務の一部がAであるものの、全体評価を引き上げるまでは至ってなく、また全体の評価を引き下げる事象もなかったため、国土交通省等の評価基準に基づきBとした。</p>

評価の方法

年度評価は、5段階評価（S、A、B、C、D）による「項目別評価」と記述および項目別評価に基づく「総合評価」（5段階評価）から構成されています。

なお、5段階評価の判断基準は、中期計画における所期の目標の達成状況に応じておおむね以下の通りとなっています。

■5段階評価の判断基準

S	A	B	C	D
法人の活動により、中期計画における所期の目標を量的および質的に上回る顕著な成果が得られていると認められる。	法人の活動により、中期計画における所期の目標を上回る成果が得られていると認められる。	中期計画における所期の目標を達成していると認められる。	中期計画における所期の目標を下回っており、改善を要する。	中期計画における所期の目標を下回っており、業務の廃止を含めた抜本的な改善を求める。



北海道新幹線(新青森・新函館北斗間) 出発式の様子(木古内駅)

A
評価

鉄道建設等業務 〔整備新幹線整備事業〕

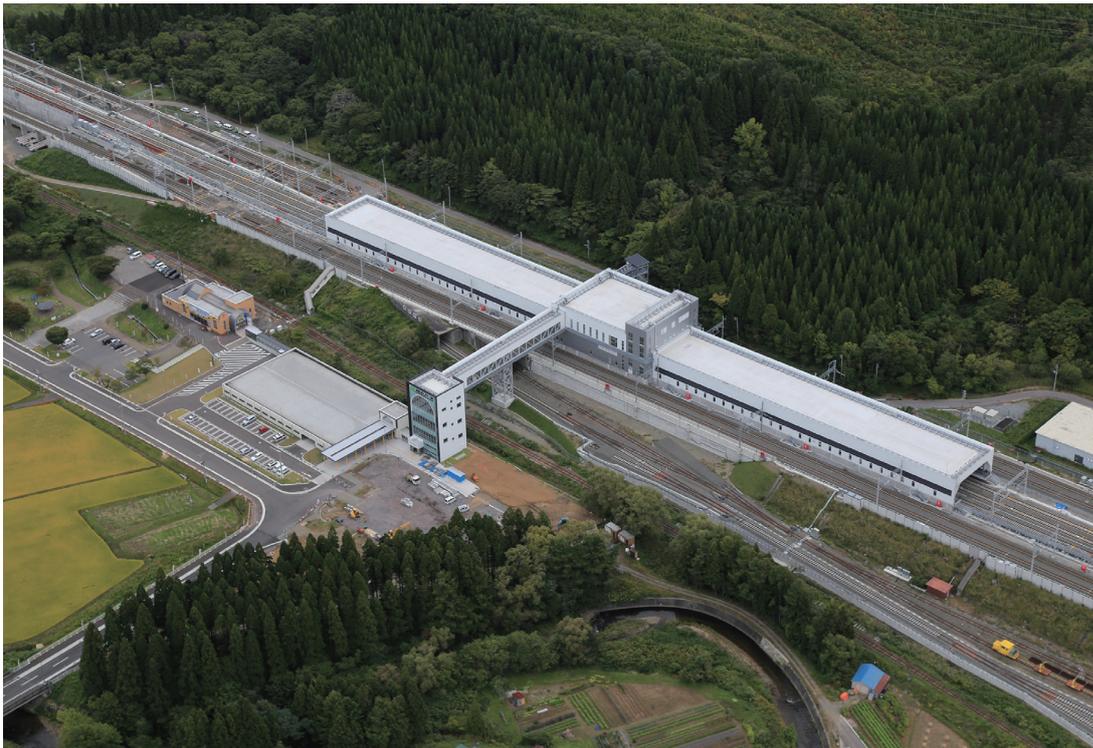
北海道新幹線(新青森・新函館北斗間)について、新幹線では初めてとなる在来線との共用走行区間の中で、限られた短い列車間合いの中、設備・電気に係る諸試験および各種設備監査等を着実に実施した。また、工事の最盛期に東日本震災が発生し、その後の復興工事があった関係で、工事用資材の入手および労働者の確保に非常に苦労したが、期日までに工事を完成させた上で、冬季における列車走行および設備の機能の確認を2カ年にわたって実施し、予定通り平成27年度末に完成させた。さらに、建設過程において、施工上の難題を解決するため、数々の新技術の開発に成功し、土木技術の発展に貢献した。この他、地方公共団体との連携を図りながら、地域性を反映したデザインと機能性を兼ね備えた駅を完成させた。

評定理由

北海道新幹線について、当初の計画には含まれていなかったさまざまな困難な状況に対し、中期計画に基づく平成27年度末の完成を旨し、特段の取り組みにより建設工事を着実に実施し、平成28年3月に開業させ国民の期待に応えたことは、高く評価できる。

今回の北海道新幹線の開業により東京・函館間の所要時間が約5時間22分から約4時間29分へと約53分短縮され、新青森・新函館北斗間では、前年同期の在来線特急と比較して乗客数が約2.7倍に増加するなどの国民経済に対する効果については、新幹線自体の効果である。

平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により、北海道から東北にかけて工事にかかる人材不足が常態化するとともに、全国的



北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）奥津軽いまべつ駅全景

に鋼材などが品薄状態になったため遅れが生じたが、代替品の使用や現場ごとに資器材の納入予定時期に合わせ作業工程を調整することで工期の短縮を行い、工事の遅れを取り戻した。

また、青森県の津軽蓬田トンネルは、崩れやすい砂を主体とする不安定な地層を掘進するため、東北新幹線工事で培った工法に残土の排出方法にも工夫を凝らすなど行った結果、高速掘進に加え、コスト削減も達成できた。さらに、積雪寒冷地という厳しい自然環境に対応するため、床版に大きな開口を設けて、降雪や列車走行時の排雪を高架橋の下に落とす、開床式高架橋を新幹線で初めて採用した。また、分岐器の可動部分に挟まった氷塊を除去するエアジェットについても、在来線での実績を踏まえ、新幹線の本線として初めて採用する等、新幹線の雪害対策に関する新たな技術を確立したなど、単に高度な技術開発を行っただけでなくとどまらず、機構の対応力の高さを示す結果となっており、評価に値するものと考えている。

北海道新幹線（新青森・新函館北斗間）の延長約149kmのうち、在来線との共用走行区間が約82kmを占めており、共用走行区間では旅客列車と貨物列車が運行する時間は工事が制限されるが、関係者との入念な事前調整を行い、作業時間を確保した上で、時間のロスを極力抑えて工事を進めることができた。

さらに新函館北斗駅については、地方公共団体との調整を密にし、道産レンガを模した壁仕上げを用いる等、機能性だけでなく地域性を反映させたデザインの駅を完成させた。

これらの成果は、これまで培った経験、柔軟な応用力、厳しい工程管理により初めて可能になったものであり、独立行政法人として、このような能力を高い水準で維持し、国民の要請に対して応えたことが評価に値するものと考えている。

以上であることを踏まえ、中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められるとしてAとしたもの。



最近竣工した共有船

A
評価

船舶共有建造業務における 財務内容の改善

評定理由

適切な債権管理により未収金の発生防止・回収強化に努力したことで、未収発生率は平成26年度に引き続き0%となり、未収金残高については、中期計画にて定めた目標値である31億円を大きく下回る11億円となった。これにより、平成28年度までに処理することとされている第1期中期目標に掲げられた未収金については、未収金の回収等適切な処理を行うことにより、1年前倒しとなる平成27年度中に処理を終了した。

繰越欠損金の縮減については、平成26年度に中期目標期間中の削減目標額を達成したことから、平成27年度中に計画の見直しを行い、さらなる削減目標額の設定を行った。また、新たな未収金発生未然防止および船舶使用料収入の増加に努めた結果、繰越欠損金額は44億円減少した。

中期計画期間における未収金発生率を1.3%以下とする目標を設定していたところ、平成27年度は0%となり、平成25年度(0.03%)および平成26年度(0%)業務実績と合わせても中期計画の目標を大幅に上回っている。

また未収金残高に関しても、目標値31億円を大きく下回る11億円となり、残高が抑制されている。

繰越欠損金に関しても、44億円の当期利益を計上したことで、繰越欠損金は同額減少し、財務内容の改善が見られた。

以上のことを踏まえ、中期目標における所期の目標を上回る成果が得られていると認められるとしてAとしたもの。

▶▶北陸新幹線

安全第一の施工で、 北陸のさらなる発展を目指す

鉄道建設本部 大阪支社 小松鉄道建設所

白山宮保では高架橋を建設中だ。平成34年度末の完成を目指し、各地で工事が急ピッチで進んでいる

■ 小松鉄道建設所担当区間



取材に協力して下さった、小松鉄道建設所の鈴木隆所長。温和な口調の中にも、工事への強い意欲が感じられる

北陸新幹線の金沢・敦賀間の完成予定は、当初の計画（平成37年度）より3年前倒しされ、平成34年度末となった。「あと約7年ですね」と何気なくつぶやいた筆者に対し、「あと7年」ではなく、我々施工者にとっては「もう7年」なんですよ」と、所長。

小松鉄道建設所の担当範囲は、富山県との県境から、石川県内を縦断し小松市に至るまでの約51.6km。このうち、白山総合車両所までの約31.6kmはすでに完成しており、残る範囲が、白山市・川北町・能美市・小松市を跨ぐ、約20kmである。

これら担当区間の最大の特徴は、全線にわたってトンネルがなく、すべて高架橋（約16.

東北地方を襲った台風10号は、北陸地方にも影響を及ぼし、あいにくの雨天となった取材当日（8月30日）。今日の作業は中止かと思いきや、現場では防水服を着込み、冷たい雨に打たれながらも懸命に作業を続ける、工事関係者たちの姿があった。

各地の現場へ、雨の中を自らハンドルを握り、我々取材陣を案内してくれ、さまざまな

質問にも丁寧に受け答えしてくださったのが、小松鉄道建設所の鈴木隆所長（以下、所長）だ。

昨年8月、小松鉄道建設所の開設と同時に大阪から転勤し、同所所長に就任した鈴木氏は、休日には長距離走をたしなみ、フルマラソンの大会出場経験もある、筋金入りのランニング愛好家である。

そんなバイタリティあふれる所長が率いる、同所職員・スタッフは総勢19名。若手からベテランまで、幅広い世代の人員で構成されている。

担当区間すべてが高架橋と橋りょう

取材時、応接室から事務所を眺めていると、にこやかな表情の職員たちが、あいさつをしながら通り過ぎて行く姿が見られた。確かに良好な所内の雰囲気を感じられた。

「健康第一」と「明るい職場」がモットー

昨年3月の長野・金沢間の開業に続き、金沢以西の敦賀への延伸工事も進行している北陸新幹線。現在、平成34年度末の完成を目指し、各地で工事が進められている。今回は白山市から小松市に至る、約20kmを担当する小松鉄道建設所を訪問し、現場の様子や建設への意気込みなどを聞いた。

昨年8月、小松鉄道建設所の開設と同時に

所長に仕事上のモットーを尋ねたところ、「健康第一」と「明るい職場」という答えが返ってきた。

「北陸新幹線の建設という、重大な任務に身を引き締めながらも、常に明るさを失わず、健康な日々を送ることが、職員の基本的な務めだと思えます。そうした姿勢が、ひいては現場の作業員たちや工事全体の安全にもつながる、と考えています」（所長）



緑豊かな自然が残っている手取川付近。環境対策など周辺への配慮は万全だ



夏場は出水期に当たるため、手取川の河川内工事は中断されていたが、今後、多数の橋脚が建設されていく

8 km)と橋りよう(約3.2 km)区間であるということだ。主要現場としては、長さ558 mに及ぶ手取川橋りようや、同じく203 mの梯川橋りようなどが挙げられる。どちらも一級河川にかかる、重要な橋りようで位置付けられている。

発掘される土器や石器

所長や現場担当者が最も危惧しているのが、先ほど触れた「残り約7年」という建設期間のようだ。実際は、レール敷設や電気などの設備工事に2年、新たな駅施設や試験運転などの最終確認に1年が必要とされるので、土木工事に与えられた期間は、実質4年もないそうだ。

元々、当地域は年間降水量の多さは全国でも上位で、冬季になれば当然、雪害に見舞われるなど、天候が工事遅延の原因となることが多々ある。

さらに、一部の現場が、地中に遺跡などの重要文化財が埋蔵されていることが予測されるエリアと重なっており、当然ながら、工事に先立ち発掘調査が実施されている。例えば、小松鉄道建設所にほど近い、JR小松駅前の八日市地方遺跡からは、弥生時代中期の土器や石器などが多数発掘された。これまでに1020点の出土品が国の重要文化財に指定されており、発掘現場は連日、見学者に囲まれている。また、市内には「埋蔵文化財センター」もあり、市民は展示を楽しむに

ている。

安全・環境に最大の配慮

とはいえ、工期に影響が生じそうな事態になろうとも、工事の安全面はもちろん、周辺の環境にも細心の注意を払うことには変わりはなくない。

一例を挙げると、白山宮保の高架橋現場は、南側が白山総合車両所という北陸新幹線の車両基地で、すぐ北側をJR北陸本線が通る、非常に狭い作業場である。現在は親杭横矢板の施工を行っているが、安全対策として、



車両基地と線路に挟まれた白山宮保の高架橋現場。JR北陸本線の通過時は、重機作業を停止する



北陸新幹線の延伸工事に先駆けて行われている、JR小松駅前の八日市地方遺跡埋蔵文化財発掘調査

とで、石川県以外の人々からも愛されており、工事への注目度も当然高い。川の環境に影響を与えないよう、管理を徹底しているそうだ。

予定だ。

この河川は、日本酒の銘柄名にもなったほど、夏場には河川が増水しやすい出水期に当たするため、手取川では橋りょうの工事を中断しており、現在は左岸にのみ橋脚が建てられている状態だが、10月中旬の工事再開後は、右岸も含め多数の橋脚が随時建設されていく

線路を専門に見張る係員を配置し、現場と接している上りJR北陸本線の通過数分前には合図を出し、クレーンなどすべての重機の運転を、一旦停止する決まりとなっている。



八日市地方遺跡の発掘調査現場には、連日大勢の見物客が訪れている。北陸新幹線と同様、周辺住民の関心は高い

延伸への大きな期待

工事は海外からも注目されている。今年1月、マレーシア高速鉄道公社の関係者など26名が来日し、手取川の建設現場を視察した。年中高温の同国では未経験だと思われる、北陸の冬特有の冷たい風が吹く中、関係者への活発な質問が飛び交う、有意義な視察会となった。「海外からのお客様は多くはないと思いますが、地元の方々からの視察の依頼等にはできる限り対応していきたい」

北陸新幹線が金沢から敦賀へ延伸することは、在来路線からの時間短縮もさることなが



現場や説明会にて、熱心に質問を重ねるマレーシア視察団。国内外を問わず、北陸新幹線への注目度は高い

ら、寒さの厳しい北陸地方にとって、雪害に強い新幹線により、利用客の確実な大量輸送が可能になることを意味する。その開業効果やメリットは、我々が想像する以上に大きいようだ。既に世界中のグループ社員の人材育成や技術トレーニングを行う施設を小松市に開設した企業もある。

「石川県だけでなく、福井県にお住まいの方々からも激励を多数いただいています。北陸新幹線の建設は、両県の交流を深めると同時に、北陸のさらなる発展につながると確信しています」

現場での丁寧な目配り

所長のソフトな口調からは、氏の誠実さと真摯さを感じさせられた。それは、案内してくれた各工事現場でも同様だった。

関係者とあいさつを交わした後は、必ず現場を見回し、気になった点はすぐに尋ねることを習慣にしているとのこと。取材当日は、現場出入口に設置されたトラックの高さを確認する

門構や、作業員の休憩場所などについて、担当者に見せていた。その一連のやり取りについて質問したところ、

「細かいことかもしれませんが、チェックを怠ったことで、大きな事故につながるケースもあります。口うるさいようですが、現場の方々もその点は理解してくれていると思います」

期待される開業効果

昨年3月に長野・金沢間が開業した北陸新幹線は、首都圏との距離を縮めたことで、利用客は開業前の特急列車の3倍となる、年間1000万人を突破。観光地は大いに賑わい、金沢市の兼六園は、前年比60%増の入園者数を記録した。

また、観光だけでなく、再開発ラッシュや他地区からの企業資本の流入などにより、日本政策投資銀行・北陸支店が開業前に試算していた、石川県124億円、富山県88億円という、年間経済効果を上回る結果となった模様だ。

小松市も既に地価の上昇傾向が見られ、観光スポットも多い同エリアは、北陸新幹線が金沢から敦賀へ延伸することにより、さらなる開業効果が見込まれている。

工事期間、現場の安全、自然環境への配慮、そして地域住民との和。多くの課題を抱えながらも、すべては「北陸のさらなる発展のため」と、小松鉄道建設所は、所員一丸となって工事の完成に向け総力を挙げて取り組んでいる。

【小松市紹介】

県内屈指の産業・物流拠点、近年は観光地としても注目を集める

❖ 豊かな自然と歴史的建造物

小松鉄道建設所が所在する小松市は、石川県の南西部に位置し、江戸時代に加賀藩三代藩主の前田利常が、隠居地として小松城に入城したことを機に、城下町として隆盛したのが起源。昭和 15 年に周辺の 2 町 6 村が合併し市制が敷かれ、工業を軸に商業、農林水産業も発展。その後も、北陸の玄関口である小松空港の開港に加え、鉄道・高速道路が整備されたことで、県内屈指の産業・物流拠点として繁栄してきた。

市の東側には、住民たちが敬愛する霊峰白山がそびえ、裾野に広がる緑の丘陵地を縫うように梯川が流れ、西側の日本海へと注いでいる。豊かな自然と歴史的建造物に恵まれた小松市は、石川県の新たな観光地としても注目を集めている。

❖ 1,300年の歴史を誇る

近年、同市を訪れた観光客の間で、最も話題となったのが那谷寺だろう。平成 29 年に開創 1,300 年を迎える同寺は、南加賀地区で唯一、ミシュラン観光部門で一つ星を獲得しており、国内外から参拝客が足を運ぶようになった。境内が紅葉で彩られる秋シーズンは特に人気だ。近くには、同じく開湯から 1,300 年の歴史を誇る、粟津温泉もある。



那谷寺。紅葉狩りの名所としても名高い

❖ 見逃せない歌舞伎スポット

「歌舞伎の町」をスローガンにしている小松市で見逃せないスポットが、歌舞伎「勸進帳」の舞台とされる安宅の関だ。安宅住吉神社の松林内にある石碑や、偽りの勸進



安宅住吉神社の弁慶像

帳を読む弁慶や、剛力に扮した義経らの銅像に手を合わせる、歌舞伎ファンは後を絶たない。

他では、干拓されずに太古のままの姿を残す木場潟と、それを取り囲む木場潟公園、苔むす庭園や古民家を鑑賞できる苔の里、桜の名所でもある芦城公園なども有名だ。

同市はグルメでの地域振興にも力を入れており、長年にわたり市民が親しんできた小松うどんに塩焼きそば、さらには地元の名産品であるトマトを使用したトマトカレーなどは、市外の人々からも好評を得ている。平成 24 年からは「小松を元気に」を合言葉に、“こまつ地美絵”がスタートした。これは小松文化を代表する“茶道”と、



トマトカレー

里山で捕獲される“ジビエ(猪)”、そして小松のものづくりの原点“九谷焼”をテーマに、小松の新たな地域資源となる「小松食の祭典」を通じ小松を元気にするプロジェクトだ。

❖ 新幹線が加わる「乗り物の町」

先述の小松空港は、航空自衛隊基地と共用しており、毎年恒例の航空祭には、10 万人以上もの来客で賑わう。空港には、航空博物館である県立航空プラザが隣接し、市内にも鉄道や自動車の展示館・博物館などが点在する。JR 小松駅前には建設機械メーカー「コマツ」工場跡地に世界最大級のダンプを展示しているなど、同市は「乗り物の町」としての側面もある。数年後には、これに北陸新幹線が加わることになるため、地元や周辺の愛好家たちの期待は大きい。



航空プラザ

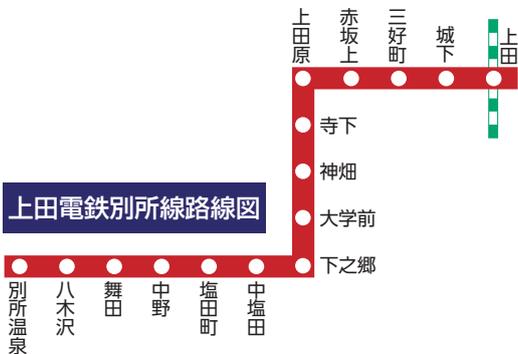
産業都市としての顔を持ちながら、自然と文化を守りつつ、積極的に新たな道も模索している小松市。来たるべき北陸新幹線の延伸により、さらなる発展を遂げることだろう。



木場潟公園から望む木場潟



JR 東日本、しなの鉄道、上田電鉄が乗り入れる上田駅(上)と塩田町駅と別所温泉駅を結ぶシャトルバス(下)



上田電鉄別所線路線図

上田電鉄の今成孝雄社長は「上田・別所温泉間で途中駅からのバス利用による散策もぜひ試してほしい。口コミを増やすことで、評判を高め、地域

2次交通との連携に光明を

塩田平には鎌倉時代に後北条の一党の北条義政が定住していた。地名の「別所」も北条氏の別院があったことに由来する。それらの歴史・文化財を訪ねるには、別所線塩田町駅から別所温泉駅まで約10kmのシャトルバス(上田バス)が便利だ。



今成孝雄社長

同時に、「地域産業が勢いを得れば、若い人たちの職場確保も可能になる」と期待し、「とにかく動いてみなければ結果は分からないが、まずは論より証拠の姿勢でいきたいと思えます」と極めて前向きだ。

若い人の見学が多い 無言館

バスの沿道に並ぶ名所旧跡を列記すると――。

生島足島神社は下之郷駅から徒歩5分。地形上、日本の中心部にあることから、日本のヘソの異称も。

無言館は近くにある信濃デッサン館の分館として平成9年に開館した。第2次世界大戦で戦没した画学生の遺作を展示している。若い人の見学者が多い。信濃デッサン館は村山槐多ら夭折の天才画家の作品を展示する美術館。前山寺は弘法大師が開いた。三重塔は国指定重要文化財。「未完成の完

上田電鉄株式会社

〈会社概要〉

- 本社 〒386-1211 長野県上田市下之郷 498
- 設立 大正 5 (1916) 年 9 月 17 日 (丸子鉄道)
- 営業開始 大正 7 (1918) 年 11 月 21 日 (丸子鉄道丸子町～大屋間 6.5 km)
- 払込資本 1,000 万円
- 筆頭株主 上田交通 比率 100%
- 代表者 代表取締役社長 今成孝雄
- 従業員数 35 名
- 東京急行電鉄傘下=昭和 33 (1958) 年 11 月 7 日
- 上田交通から分社して、上田電鉄として発足=平成 17 (2005) 年 10 月 3 日

〈路線〉

- 営業区間 別所線上田～別所温泉間 11.6km
- 15 駅 (うち無人12 駅) (全線単線)
- 車両数 12 両 (6 編成)

鉄道・運輸機構の助成実績

〈主な助成事業〉

- 鉄道軌道近代化設備整備費補助金 平成 15～19 年度
- 鉄道軌道輸送高度化事業費補助金 平成 20・21 年度
- 踏切保安設備整備費補助金 平成 15 年度

レール・分岐器の重軌条化、PC 枕木化、駅舎の改良、車両の更新、踏切遮断機・踏切警報機の新設および更新等



生島足島神社



成塔」と呼ばれるのは窓や扉がないなどのためだが、美しさは不変。寺の横のやや草深い小道で塩田城跡へ行くことができる。

塩田の館の建物は、かつての蚕都・上田を彷彿させる。地域のひとのふれあいの場であり、郷土料理も提供する。

龍光院は塩田北条氏の菩提寺。黒門と樹齢600年のケヤキは見事。狩野永琳の屏風びょうぶが評判である。

塩野神社は、延喜式えんぎしきにも登場。武田信玄の朱印状が収められている。中禅寺は空海による真言宗の古刹こせつ。本尊・薬師如来坐像、神将像は国指定重要文化財に指定されている。



前山寺



龍光院



無言館

懐かしい機織りの音

たまたま無言館から信濃デッサン館へ向かう途中で、カッターン、コットンの機織りの音に気付いた。訪ねると、二人の女性が懐かしい上田紬を織っていた。「独鈷山どくこと九頭龍くずりゅう権現を祀る夫神岳、女神岳を控えたこの辺りの里山は、大小100を超える灌漑用の池などと合わせて眺望満点の場所です」と、自然環境そのままの穏やかな口調。時



上田紬を織る女性

の経つのを忘れさせた。

別所温泉の「三楽寺」

別所線の最大の観光ポイントは別所温泉。神話では日本武尊東征の折に開湯され、清少納言も「枕草子」で触れているほど歴史は古い。標高650m。昔からの石湯など共同浴場も人気だ。

かつては「三楽寺」と称された三つの寺があった。常楽寺、安楽寺、長楽寺で、長楽寺は幕末の大火で廃寺になり、残った北向観音堂が今も信仰を支えている。

常楽寺は北向観音堂の本坊で、そのいわれを伝える石造多宝塔は重要文化財である。また、安楽寺の八角三重塔は塩田北条氏が建立したもので全国唯一の八角塔だ。南面の善光寺（長野市）と向かい合う北向観音堂は、観音様のお告げで建てられたという。石の階段横の「長楽寺古跡の碑」で往時を偲ぶしのべるが、本堂には「北向山」の文字を繭まゆで記した額などが架けられ、人々の暮らしぶりとの密着度が読み取れる。

大学生が率先して地域PR

塩田平をもっと周知させたいという行動が、別所線「大学前駅」最寄り



常楽寺



安楽寺



長楽寺古跡の碑



北向観音堂

サポーターの声

SUPPORTER'S VOICE

別所線の将来を考える会
代表 竹田 貴一さん



部屋の中に CD「夢み鉄道別所線」のメロディーが流れた。竹田さんが全国から募集した歌詞に、地元塩田平出身者が作曲した『別所線イメージソング』だ。ジャケット絵が自身の愛娘のものだけに一層思いは深い様子。同じように作られたイメージソングのもう1曲は「別所線牧歌」という。

信州の方言で面倒くさいことをやることを“ずくを出す”と言うそうだが、竹田さんは別所線のためには、“ずくを出すこと”を少しも厭わないらしい。

上田市には住民で地域公共交通網を考える市民グループがある。その活動は市域にとどまらず、近隣各地にも足を延ばし、少しでも地域公共交通活性化に役立つものを得ようとしている。別所線についても富山県高岡市の万葉線などを視察し、会社の経営努力、行政の支援のあり方、地域住民の協力姿勢についての意見交換を重ねている。『別所線イメージソング』はそうした中から生まれたものだ。作曲者は沿線の無言館（戦没画学生のための美術館）のイベントでいつもコカリナ演奏を続けている黒坂黒太郎さん。竹田さんの活動とは縁が深い。

別所温泉駅に丸窓電車が留置されている。そのデザインを活かした1編成2両が営業運転していた。駅にいた上田城跡公園見物から別所温泉へ向かう観光客も大喜びだ。

「別所線牧歌」は、「車内でこの電車にまつわる音楽を流してほしい」と乗客が話すのを竹田さんが聞いて思い付いたという。

この夏には、沿線の子もたちに「別所線に詳しくなろう」と呼びかけた。それには図書館で別所線のあれこれを調べてから乗ろうとも声をかけた。身近なものに別所線の大切さを感じ取ってもらうことは、近い将来の大事なお客様になる層にとっての心構えともなる。ともすると細やかな気配りを忘れやすいが、“ずく”のある竹田さんにはそうした心配はいらないかもしれない。



別所温泉駅に留置されている丸窓電車(上)とそのデザインを現在に引き継ぎ運行している「まるまるどりーむ号 Mimaki」(左)



の長野大学、上田女子短期大学の学生たちから始まっている。
上田女子短期大学2年生の高山さつきさんは、上田電鉄が今秋から始める電車内での沿線ガイド役に自発的に応募した六人のうちの一人。
「大学周辺のことを知り、それを人



小林景乃さん(左)と高山さつきさん(右)

前で披露する経験を積むことで自力を養いたい。本番では格好はなまになれるので、それも大きな楽しみみです」
長野大学2年生の小林景乃さんは、ゼミナールで分かり易い地図づくりに当たっている。
「塩田平の見どころマップを三人で製作中です。地域活性化のお役に立ちたい」と、その意気込みを話す。

旅心を誘う ハーモニカ駅長

上田電鉄の資料館がある下之郷駅で、元上田駅長の春原貞良さんに出

会う。お土産用の小さなハーモニカを販売しながら、別所線内でハーモニカを吹いて旅情を盛り上げていた。「日本一のローカル線を目指すこと。それが私の夢とロマンです」と言う。車内に「故郷」のメロディーと唱和の声が流れた。

「別所線は地域のバックボーン的存在と自負しています。だからこそ大学生も含めた地域の人たちと一緒に努めて別所温泉や塩田平一帯の活性化に努めたい」との今成社長の発言は、一層現実味を増してきたようだ。

フリーライター 平野雄司



ハーモニカ片手に春原貞良さん

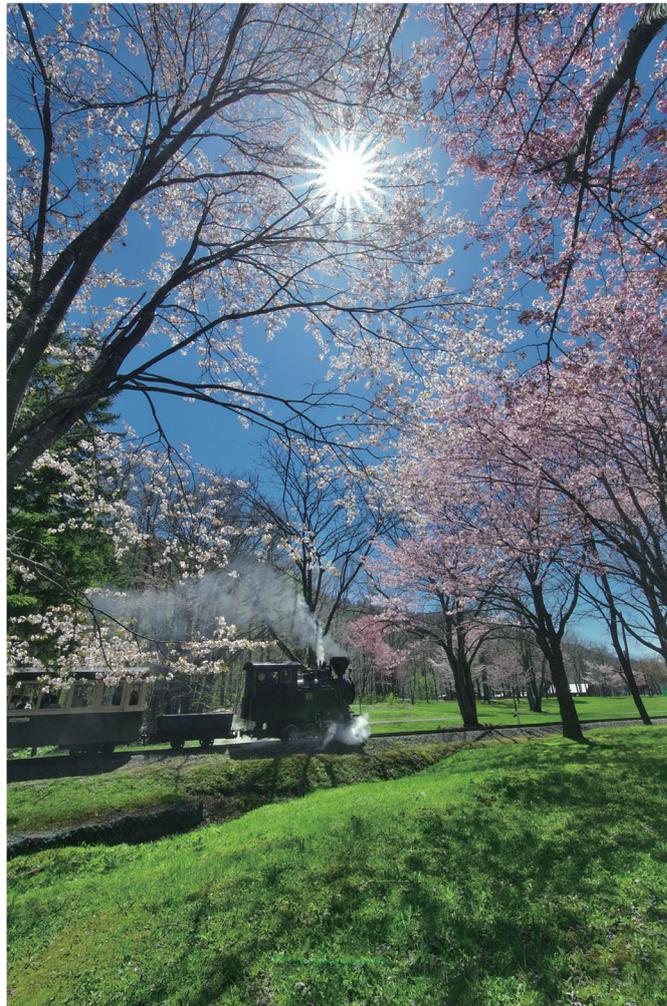


旧西丸子線下之郷駅の駅舎(上)。現在資料館となっている

第17回「鉄道のある風景写真コンテスト」

01

9月8日(木)、第17回「鉄道のある風景写真コンテスト」の審査会を開催しました。今年は421名(1,151点)の応募がございました。審査の結果、グランプリは北海道の伊藤正和さんの作品「さくら爛漫^{らんまん}」が選ばれました。各作品は当機構のホームページにも掲載するほか、下記の場所で展示会を開催いたしますので、ぜひご覧ください。



 グランプリ

 「さくら爛漫」
 北海道 伊藤正和

遠軽町丸瀬布いこいの森 蒸気機関車雨宮21号

〈受賞・入選作品展示会〉

- 第23回鉄道フェスティバル会場 (東京・日比谷公園) 10月8日(土)～10月9日(日)
- 徳島駅クレメントプラザ 10月14日(金)～10月20日(木)
- つくばエクスプレス浅草駅 11月25日(金)～12月9日(金)

審査委員

委員長 猪井 貴志 (写真家)
 委員 中村 直美 (㈱交通新聞社第2出版事業部長)
 委員 竹内 健蔵 (東京女子大学教授)
 委員 奥田 哲也 (国土交通省鉄道局長)
 (代理：山上 範芳 (国土交通省大臣官房審議官(鉄道局担当)))
 委員 北村 隆志 (鉄道・運輸機構理事長)

※敬称略

夏賞

「鉄道の日」実行委員会会長賞



「荒ぶるとき」神奈川県 岡田 亘
伊豆急行 / 伊豆急行線 (伊豆稲取・今井浜海岸間)

春賞

国土交通省鉄道局長賞



「新緑の頃」大阪府 山口 誠博
JR 西日本 / 芸備線 (内名・小奴可間)

冬賞

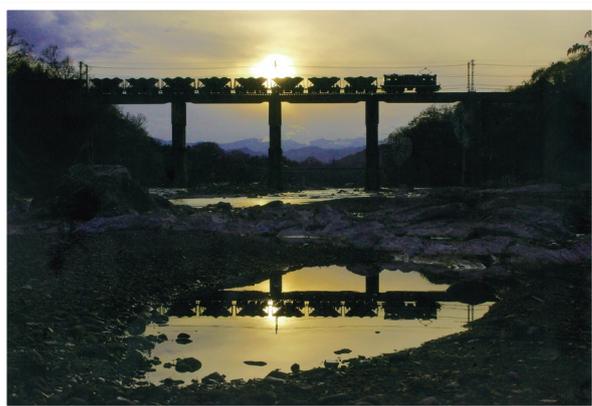
鉄道建設・運輸施設整備支援機構理事長賞



「綿帽子に見つめられ」愛知県 山中 源三
JR 東海 / 高山本線 (焼石・飛騨金山間)

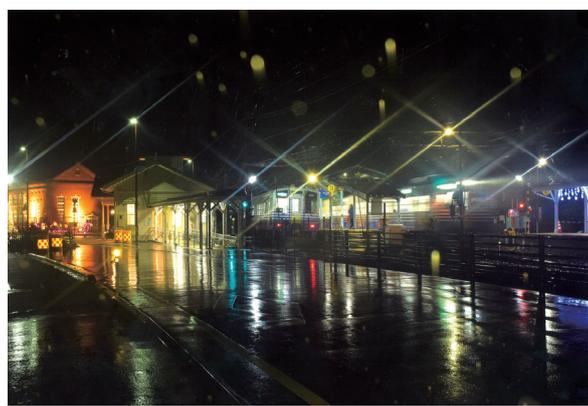
秋賞

「鉄道の日」実行委員会会長賞



「鉄橋を行く」埼玉県 板橋 昇
秩父鉄道 / 秩父本線 (親鼻・上長瀬間)

ジュニア賞



「冬の贈り物」大阪府 倉場 康太
えちぜん鉄道 / 勝山永平寺線 (永平寺口駅)

入 選



「秋晴れの里」
栃木県 落合 敬吉
JR 東日本 / 水郡線 (袋田・上小川間)



「未来に向かって」
神奈川県 山田 道春
JR 東日本 / 磐越西線 (猿和田・五泉間)



「八高、桜橋梁を行く」
埼玉県 春山 十一郎
JR 東日本 / 八高線 (児玉・松久間)



「晩秋を行く」
北海道 鈴木 亮
JR 北海道 / 函館本線 (ニセコ・比羅夫間)



「森を抜ける」
福岡県 成清 平和
JR 九州 / 久大本線 (豊後中村・引治間)



「近江ブルー」
滋賀県 中村 義宣
近江鉄道 / 近江鉄道本線 (長谷野・大学前間)



「ひとり行く」
東京都 松竹 博文
JR 北海道 / 花咲線 (落石・別当賀間)



「寒い朝」
神奈川県 江本 直尚
JR 北海道 / 釧網本線 (知床斜里駅)

審査委員長総評

第17回「鉄道のある風景写真コンテスト」に今年も多数の応募が寄せられました。回を重ねるたびに応募者の熱意が伝わってくることに審査員一同喜びを噛みしめ、応募作品の選考に当たりました。

この写真コンテストの「鉄道のある風景写真」というテーマに魅せられたら、写真撮影の楽しさを満喫することができるのです。撮ろうと思う被写体は全国・四季折々見せてくれる彩の中を縦横に走り巡っています。その被写体に何を想うのか・どこに惹かれてレンズを向けるのか・それらを写し出すにはいつ撮影したら良いのか・鉄道と風景をいかに融合させるか? これらを幾重にも組み合わせることで撮影が一段と楽しくなるのです。たまたま出かけて良い写真が撮れることもあります、被写体をより多く知ることによって決定的瞬間を写し止める確率を引き上げることができるのです。

第17回グランプリを射止めた伊藤正和さんの作品「さくら爛漫」。爽やかな作品になりました。春の情景を、逆光線が作り出す明暗の対比で巧みに捉えた鋭いカメラアイ、それを表現する構図、露出ワークともに感服しました。早春の雰囲気にも包まれた森林公園に走る蒸気機関車雨宮21号の姿に、作者の優しい心情が見事に描き出された作品です。

審査委員長 猪井 貴志 (写真家)

「旧国鉄土地」最後の処分に向けて

国鉄清算事業用地部

旧国鉄土地の概要

昭和62年4月の国鉄改革に伴い、旧国鉄等から国鉄清算事業団（現在の鉄道・運輸機構、以下「当機構」という）に帰属した約9238haの土地については、既に約99.9%の処分が完了し、平成28年度首で当機構が保有する土地は、梅田駅北地区の約9.7haと長町駅（38街区）の約1.6haを残すのみとなっています。

このうち梅田駅北地区の土地は、当地区で進められている「うめきた2期開発」の民間開発対応用地として、平成27年10月にUR都市機構と土地売買契約を締結しており、開発事業者決定後に譲渡価格を確定の上、土地の引き渡しを行い、土地処分を完

了する予定です。

長町駅（38街区）の概要

一方、長町駅においては昭和61年に「長町操車場」が廃止され、その跡地等約30haについては、UR都市機構が施行する「仙台市あすと長町土地地区画整理事業」による仮換地指定および使用収益が開始され次第、順次土地処分を進めてきましたが、平成23年3月に発生した東日本大震災により、その応急仮設住宅用地として宮城県から当機構に対し借地要請があったため、当機構はその時点で未売却であった四つの街区（13街区・14街区・16街区・38街区）を貸し付けることとしました。

その後、38街区を除く三つの街区につい

ては返還されたため、平成24年6月に公開競争入札を実施し処分を完了しましたが、38街区については、仙台市で一番大きな応急仮設住宅（233戸）が建設され現在に至っていました。

このような状況下、震災発生から5年余りが経過し、復興公営住宅等への転居も進み、機構土地約1.6haの返還見通しが立ってきたことから、当機構は、宮城県および仙台市と返還に向けた協議等を進めるとともに、返還後の平成29年度上期の公開競争入札実施を目指し、準備を進めているところです。

これにより、当機構は、昭和62年4月以来約30年にわたり進めてきた旧国鉄等から帰属した全ての土地処分を完了する予定です。

長町操車場跡地（平成元年4月）



まちづくりが進む長町地区（平成28年5月撮影：仙台市提供）



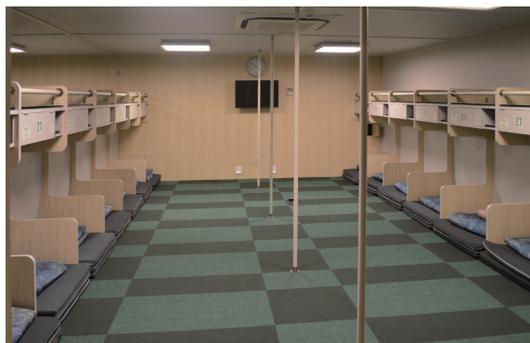
「おがさわら丸」体験乗船会



「おがさわら丸」



特1等室 (デラックス)



2等和室 (エコノミー)



レストラン [Chichi-jima]

小笠原海運株式会社との共有船「おがさわら丸」(1万1035総トン、三菱重工業株式会社下関造船所にて平成28年6月17日竣工)の体験乗船会(東京・小笠原)が6月25日から28日の4日間で実施されました。

おがさわら丸は、東京・竹芝と父島の間、約1000kmを結ぶ唯一の定期船であり、生活物資の輸送や、島民、観光客の移動手段として重要な役割を担っています。本船はおよそ19年ぶりの新船となり、前船に比べ高速化を実現し、東京・父島間を航海時間24時間(1・5時間短縮)で結べるようになりました。船内はカラフルでモダンなデザインで統一されています。ま



展望ラウンジ [Haha-jima]



父島「三日月山 ウェザーステーション展望台」からの風景

た、搭乗フロアからのエレベーター、介護室の設置といったバリアフリーにも十分配慮されています。

客室は、前船より個室を増やし、さらに多数の乗船者が寝泊まりする2等個室には間仕切りを設置する等、プライベート空間を充実させています。

体験乗船会の参加者を乗せたおがさわら丸は、25日午後、東京・竹芝桟橋を出港しました。参加者たちは、広々とした展望ラウンジやレストランで海を眺めつつ語らいながら、まだ見ぬ小笠原への期待に満ちた時間を過ごしました。

父島では、小笠原村主催の歓迎会が行われました。同時期に就航することとなった共有船「はじま丸」（父島↔母島航路、株式会社渡辺造船所にて平成28年6月14日竣工）の船内見学会も実施されました。また、約1日の自由時間には、参加者各自がトレッキングやダイビングなどを通して小笠原の大自然を満喫していました。

27日の出港時には、多数のクルーザー等による「小笠原名物 世界一のお見送り」を受け、別れを惜しみました。乗船者に話を聞くと「乗る前は不安だったが、揺れも少なく、快適に過ごせた。初めての小笠原は東京都とは思えない南国の大自然で驚いた。また訪れたい」とのことでした。

おがさわら丸は、7月2日より、およそ週に1便のペースで就航しています。まとまったお休みの際には優雅な船旅と小笠原諸島の大自然を楽しまれてはいかがでしょうか。

■「おがさわら丸」概要

総トン数	11,035 トン
航海速力	23.8 ノット (時速約 44km/h)
最大速力	26.5 ノット (時速約 49km/h)
主要寸法	全長 150.0m 幅 (型) 20.4m 深さ (型 5甲板) 12.2m
主機関	4 サイクルディーゼル機関 (最大出力9,900kW、JFEエンジニアリング製)
最大積載人員	旅客894名、船員等45名の合計 939名



父島に停泊中の「おがさわら丸」

竣工船の紹介

平成 28 年 6 月から 8 月の間に機構では新しい共有船 5 隻が竣工致しました。各船とも、国の運輸政策でもある環境にやさしい船舶や物流効率化に寄与する船舶となっており、地域の交通と日本の物流を支えています。

旅客船 Passenger Ship



「ははじま丸」

平成 28 年 6 月 14 日（火）、長崎県長崎市の株式会社渡辺造船所において竣工した伊豆諸島開発株式会社との共有旅客船。

- 総トン数：453 トン
- 船 種：貨客船
- 政策目的：離島航路に就航する船舶
- 航 路：父島～母島

旅客船 Passenger Ship



「おがさわら丸」

平成 28 年 6 月 17 日（金）、山口県下関市の三菱重工業株式会社下関造船所において竣工した小笠原海運株式会社との共有旅客船。

- 総トン数：11,035 トン
- 船 種：貨客船
- 政策目的：二酸化炭素低減化船（高度二酸化炭素低減化船）
- 航 路：東京～父島

貨物船 Cargo Ship



「桜栄丸」

平成 28 年 6 月 17 日（金）、大分県佐伯市の株式会社三浦造船所において竣工した松盛汽船株式会社および双栄海運株式会社との共有貨物船。

- 総トン数：747 トン
- 船 種：セメント専用船
- 政策目的：二酸化炭素低減化船（高度二酸化炭素低減化船）
30 歳未満の若年船員を計画的に雇用する事業者の船舶
- 積 荷：セメント等

貨物船 Cargo Ship



「みゆき」

平成 28 年 8 月 10 日（水）、広島県豊田郡大崎上島町の小池造船海運株式会社において竣工した有限会社六甲船舶との共有貨物船。

- 総トン数：749 トン
- 船 種：コンテナ専用船
- 政策目的：内航フィーダーの充実に資する船舶
30 歳未満の女性船員等を計画的に雇用する事業者の船舶
- 積 荷：コンテナ

貨物船 Cargo Ship



「智山」

平成 28 年 8 月 31 日（水）、広島県福山市の本瓦造船株式会社において竣工した光洋油槽船株式会社との共有貨物船。

- 総トン数：499 トン
- 船 種：油送船
- 政策目的：二酸化炭素低減化船（高度二酸化炭素低減化船）
- 積 荷：白油



「鉄道・運輸機構だより」に関するアンケートのお願い

いつも「鉄道・運輸機構だより」をご愛読いただきありがとうございます。
今後の編集の参考とさせていただきますので、下記のアンケートにご協力ください。
該当する項目にチェックの上、その理由などをご記入ください。

このページをコピーして
ご使用ください

FAX番号 045-222-9089

1 今季号で面白かった・興味を持った記事を3つあげてください。

P.02 巻頭言

P.04 特集 共有船レポート

「人と人をつなぐもの2016～長崎編～」

P.10 CLOSE UP 平成27年度の業務実績評価について

P.14 WORKING REPORT

大阪支社 小松鉄道建設所

P.20 寄稿 ～地方鉄道を訪ねて～「上田電鉄」

P.24～30 TOPICS

第17回「鉄道のある風景写真コンテスト」

「旧国鉄土地」最後の処分に向けて

「おがさわら丸」体験乗船会

竣工船の紹介

2 上記Q1で選んだ回答に対するそれぞれの理由をお聞かせください。〔必須〕(200字程度)

3 今後とりあげてほしいテーマをお聞かせください。(200字程度)

4 全般についてのご意見・ご要望などをお聞かせください。(200字程度)

▼ご協力ありがとうございました。もし差し支えなければ、以下にもご記入ください。

貴社名	お名前	年齢	歳
-----	-----	----	---

※個人情報の保護について：個人情報につきましてはより良い「鉄道・運輸機構だより」作成のための参考とし、他の目的には使用しません。

【問い合わせ先】 鉄道・運輸機構総務部広報課 電話：045-222-9101

お詫びと訂正

「鉄道・運輸機構だより No.50 夏季号」の5ページ表1「北海道新幹線(新青森・新函館北斗間)のスペック」表中で「最急勾配」欄の「20.80%」は、「20.80%」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

編集後記

「鉄道・運輸機構だより」秋季号をお届けします。
ことわざに「天高く馬肥ゆる秋」というのがあります。意味は、空気が澄んでいて、空も高く感じられ、馬も肥えるような収穫の季節ということのようです。しかし、最近では、8月に台風が4個も日本列島へ上陸するなど異常気象が多く発生し、それにより甚大な被害がもたらされています。自然の力には逆らえないものの、秋は、みんなが笑顔で過ごせるような収穫にふさわしい季節であってほしいものです。

さて、「特集」は、共有船の「たかしま」(松浦市今福(飛島)鷹島間を運航)と「フェリーくろしま」(佐世保市相浦(高島)黒島間を運航)です。いずれの船も島民の方にとっては、生命や生活に欠かせない重要な交通手段となっています。また、黒島は「潜伏キリシタン関連遺産の黒島集落」として2018年の世界遺産候補となっており、今のうちに一度訪れてみてはいかがでしょうか。

「クローズアップ」は、平成27年度の業務実績評価です。23の項目別評価のうち、北海道新幹線開業と船舶共有建造業務における財務内容の改善が目標を上回る成果が得られているとの評価を受けています。

「ワーキングレポート」は、北陸新幹線の白山市(小松市間の工事を担当している小松鉄道建設所)です。限られた工期の中で「健康第一」と「明るい職場」をモットーに所員をまとめながら工事を進めている所長さんのたくましさにご感銘がもてます。

「地方鉄道を訪ねて」は、長野県の上田電鉄です。上田駅から別所温泉駅までの11.6kmの単線を営業しています。地元では、塩田平をもっと知ってほしいと願う女子大学生が、自発的に電車内での沿線ガイド役を担ったり、塩田平の見どころマップを製作したりと若い力が地域活性化を推し進めていることに感心させられます。関係者の皆様には取材にご協力頂きありがとうございます。

「トピックス」は、第17回「鉄道のある風景写真コンテスト」の入賞・入選作品を紹介しています。また、「旧国鉄土地」の最後の処分に向けた取り組みや今年の7月に就航しました共有船「おがさわら丸」の体験乗船会の様子を紹介しています。

次号も最新の情報をお届けしたいと考えておりますので、今後とも「鉄道・運輸機構だより」をご愛読頂きませうよう、よろしくお願ひします。
(広報課長)



明日を担う交通ネットワークづくりに貢献します。

鉄道・運輸機構

鉄道・運輸機構だより No.51

2016 Autumn 秋季号(季刊) 平成28年10月発行

編集・発行者

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(略称:鉄道・運輸機構)総務部 広報課
Japan Railway Construction, Transport and Technology Agency(略称:JR TT)

〒231-8315 神奈川県横浜市中区本町6-50-1(横浜アイランドタワー)

TEL:045-222-9101

ホームページ <http://www.jrtt.go.jp/>



UD FONT



当紙:100%配合率90%再生紙を使用



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。